

❖ 令和6年度表彰受賞者 ❖

厚生労働大臣表彰（公衆衛生事業功労者）、広島県知事表彰（公衆衛生地区組織活動功労）及び広島市長表彰（地区衛生組織活動功労）を次の方々が受賞されました。誠にありがとうございます。

厚生労働大臣表彰



西区福島地区会長
山 肩 俊 彦

公衆衛生推進委員に就任して22年、それ以来、諸先輩や、皆様のご協力を頂き、各種事業を実施することが出来ました。この受賞は、皆様あってのことです。本当にありがとうございました。今後も、いろいろな事業が続きますが、特に「きれいな街ヒロシマ」を、多くの人に見てもらえるよう、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



安佐南区大塚学区会長
平 岡 稲 實

平成元年より公衆衛生推進委員に就任し36年。平成14年には安佐南区伴学区が3学区に分かれたのちは大塚学区の会長を務めてまいりました。地域の皆様のご理解とご協力のもとに今があります。これからも地域の発展に微力ながらも出来る限りお手伝いできればと思っております。この度は誠にありがとうございました。

広島県知事表彰

安佐北区真亀学区 会長 前本 聡 宏	西区井口明神学区 推進委員 藤田 まり子
南区元宇品学区 推進委員 松木 道 江	南区比治山学区 推進委員 福 島 忍
西区井口明神学区 推進委員 久保田 祐 子	

広島市長表彰

濱 吉 計 守 (矢賀)	南 條 巧 (尾長)	向 井 慶 子 (尾長)
河 野 正 代 (比治山)	黒 瀬 義 仁 (比治山)	秋 田 正 洋 (段原)
三 上 温 敏 (段原)	藤 田 裕 一 (黄金山)	右 近 元 昭 (井口)
赤 石 徹 (己斐)	高 林 和 紀 (己斐)	日 高 和 雄 (古田台)
松 木 稔 (大芝)	廣 田 健 次 (天満・中広)	速 山 健 (毘沙門台)
二 井 勝 成 (八幡東)		

敬称略 ()は所属する学区(地区)

❖ あとがき ❖

広報委員長 藤 岡 輝 久

短いと思える期間でしたが、広報委員会の委員長を任せて頂き感謝申し上げます。

広島市公衆衛生推進協議会という、歴史ある団体の広報委員長の任務を経験できたこと、嬉しく思います。

ただ、推進委員の皆様や地域、市民の皆様にとっては、私でよかったのかな？と思わずにはられません。

私自身、未熟な所があったと思います。この経験を今後の公衆衛生活動に活かしていこうと思います。

また、諸先輩方々から色々な物事を教わりました。これらの経験を胸に刻み、広島市と公衆衛生推進協議会の発展、推進委員の皆様方、そして広島市民の皆様方の為に尽くしてまいります。

最後に、推進委員の皆様と共に公衆衛生推進協議会の活動を盛り上げていき、広島を住みよいまちにしていきましょう。寄稿していただいた方々ありがとうございました。

No.44



発行 令和7年4月1日

公衆衛生推進委員だより

編集 発行 特定非営利活動法人 広島市公衆衛生推進協議会 広報委員会 委員長 藤岡 輝久
広島市中区富士見町 11-27 TEL&FAX 082-243-7400
E-mail : koueikyou@y5.dion.ne.jp http://www.koueikyo.org/

❖ 第57回公衆衛生推進委員大会を盛大に開催 ❖

地区組織委員会 委員長 坂 本 道 治

令和6年10月25日に、第57回広島市公衆衛生推進委員大会が西区民文化センターで開催された。この大会は、公衆衛生の進歩向上に努力している公衆衛生推進委員としての自覚を高め、地区衛生組織活動（コミュニティー活動づくり）の一層の発展を図ると共に、永年にわたりこの運動に寄与された方々の功績をたたえ、表彰を行うことを趣旨としています。

本大会には来賓として、広島市から中井幹晴副市長、母谷龍典市議会議員、各区長、後援団体の代表者らが出席、139学区（地区）の公衆衛生推進委員約400名が参加しました。

開会にあたり辻第二副会長が、「公衆衛生推進委員の皆様には日頃から環境美化に関心を頂くと共に、公衆衛生に関わる各種事業にご尽力いただき、ありがたく感じます。今後も明るいまちづくり活動に注力していきましょう。」と挨拶がありました。

この後、永年にわたり地区組織活動に従事し、公衆衛生の向上・発展に積極的に取り組み功績をあげられた市長・市公衛協会長表彰の受賞者66名と退任学区会長感謝状の受賞者15名の栄誉をたたえ、中井副市長と辻第二副会長から表彰状・感謝状並びに記念品が贈呈されました。

中井副市長は挨拶で、「設立から今日に至るまで、様々な事業を通じて健康で明るい家庭と住みよいまちづくりに多大なるご貢献を頂いている公衆衛生推進委員に対し厚くお礼申し上げます。また、表彰を受けられた皆様には、これまでのご努力とご功績に深く敬意を表すと共に、今後より一層のご活躍を期待申し上げます。」と述べられました。

そして特別講演では、「健康寿命の延伸を目指して」と題し、広島市健康福祉局保健部参与の行廣律江様から「広島市健康づくり計画：元気じゃけんひろしま21（第3次）」についてご講演を頂き、広島市民の健康を取り巻く現状と課題、それを踏まえ健康の更なる延伸を目指して今後我々が取り組んでいくべき3つの事項（運動、食事、良い睡眠）について、参加者全員で理解を深めました。



最後に、桑野副会長による活動中間報告ののち、山肩副会長による大会宣言で「私たち公衆衛生推進委員は、健康で明るく快適な住みよいまちづくりの実現を目指し、より積極的に、かつ効果的に公衆衛生活動に取り組む」ことを申し合わせ、満場一致で採択され本大会を終了しました。



❖ 盛り上がった花の寄せ植え講座 ❖

安芸区畑賀学区公衆衛生推進協議会 会長 縫部 壮三

安芸区畑賀学区では、毎年女性を中心に参加を募集して花の寄せ植え講座を開催しています。

5種類の各花のセットを用意、各プランター寄せ植えを行います。大変人気絶頂で申込み開始から30分で予定の参加者が締め切りになるほどの実績です。他学区でもこの寄せ植え講座は興味があり、講師も丁寧に指導される事から参加者の方々からも「やめないで」との声も多く、継続事業として取り組んでいきたいと思っています。



❖ 佐伯区推進委員一泊合同研修会 ❖

佐伯区八幡東学区公衆衛生推進協議会 会長 二井 勝成



令和6年11月18日・19日の両日、各学区（地区）相互の体験交流により、地域のリーダーとして地区組織の向上に協力し、公衆衛生の実践活動に貢献し親睦を目的に、区公衛協の一泊合同研修会に総勢30名で四国高松市にある南部クリーンセンターの施設見学に行ってきました。当日は天気が気になりましたが車中で少し雨にたたわれましたが、その後天気が回復し一安心。約4時間バスでの移動で高松市にある中



野うどん学校でうどん打ちを体験し、麺を茹で昼食をとり、うどん学校を無事卒業しました。続いて今回の研修目的地の南部クリーンセンターで施設案内DVDを鑑賞する予定が機器不調の為、係員の説明を交えながらいきなりの施設見学となりました。ごみ焼却能力は広島市中工場の二分の一程度の規模で、中工場との違いは①缶・ビン・ペットライン②プラごみライン③紙・布類ラインと埋立て処分地・最終処分場が同一敷地内にありました。また広島市ではごみの個人持込みは無料ですが、この施設では100キログラムまでは1700円必要とのこと。どこの施設も問題である、正しいごみの分別・特に可燃性のあるごみ発火性のあるごみ（リチウム電池・・・）とごみの減量化を改めて認識しごみ出しに対する意識が高まりました。リサイクル体験コーナーでは30分か紙すきからハガキ作りを体験し楽しい施設見学となりました。その後は四国村ミュージアムを観光しホテルでの懇親会となり楽しいひと時を過



中野うどん学校



ハガキ作り

ごし2日目は屋島寺～国の特別名勝、栗林公園を見学し帰路につき車中ではビンゴゲームを楽しみ景品をゲットされ喜ばれていました。一泊二日の合同研修会は無事怪我無く帰ってきました。皆さんお疲れ様でした。

❖ 散乱ごみ追放キャンペーン ❖

安佐南区安東学区公衆衛生推進協議会 会長 藤岡 輝久

令和6年9月29日、安佐南区公衆衛生推進協議会では色々な団体のご協力・ご参加の下、「散乱ごみ追放キャンペーン」を実施いたしました。

会場を安佐中学校とJA安支店の2カ所に分けて、安・安東の地域をごみを拾いながら実施しました。当日は天気も良く参加者の皆さんとおしゃべりしながら楽しく実施する事が出来ました。

地道なことかもしれませんが「みんなで」「継続」する事でキレイな町になると改めて感じることが出来ました。

ご参加、ご御協力を頂いた皆様方、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



❖ ホタルの里づくり事業 ❖

安佐北区鈴張学区公衆衛生推進協議会 会長 石原 照彦

今年度（令和6年度）も、鈴張学区において、ホタルの里づくり事業を実施しました。

川の環境美化と環境保全を目的とした活動で、地元の鈴張川をホタルが乱舞する川にしようと、毎年取り組んでいます。

公衆衛生推進協議会と社会福祉協議会が共同で実行委員会を立ち上げ、15年前から継続して実施しています。

鈴張小学校の総合学習の一環としても取り入れられており、ホタルや川の生き物調査に始まり、ホタルの捕獲、産卵、飼育、放流までの一連の活動を小学生と一緒にしている事業です。



ホタル、カワニナなど、川の生き物調査を小学生と一緒に実施（令和6年6月19日）

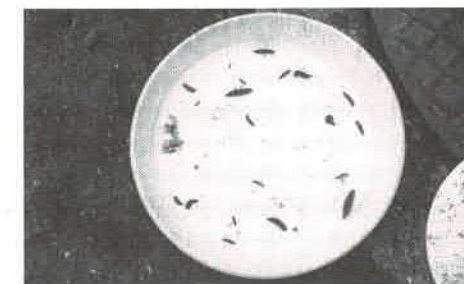


鈴張小学校における総合学習「川の学習」の授業風景（令和6年7月12日）

プランターで産卵させたホタルの幼虫を、自治会集会所の水槽と小学校のビオトープ「ホタルのいえ」で育て、放流します。その間、ホタルの餌となるカワニナは、10回程度供給します。



川の学習の後、生まれたばかりのホタルの幼虫を、小学校のビオトープに放流（令和6年7月12日）



生長したホタルの幼虫（令和6年11月9日）

近年は、鈴張川が毎年のように起こる水害とそのための復旧工事などで、ホタルの住みにくい環境になっていますが、少しでも生物の住みやすい環境を実現できるよう、この活動を続けていきます。